

【香川アイスフェローズ賞】

「公平さを感じた僕のけが」

観音寺市立観音寺中学校 二年 福田悠惺

僕は、人権という言葉聞いても、あまりぴんときませんでした。なぜかという、僕は今まで生きてきた中で、不平等や不公平な経験をしたことがなかったからです。

そんな僕は、中学校一年生の頃に自転車で下校中、自転車ごと転倒してしまいました。その時に右手をついてしまったため、激痛が走りました。そのとき一緒に帰っていた友達が、家から保冷剤やテーピングを持ってきて、応急処置をしてくれましたが痛みは治まらず、近くに住んでいた知り合いの人がそんな僕に気づいてくれて、車で送って帰ってくれました。そのあと、病院に行くと右手を骨折しており、ギプス生活が始まりました。

右手を使えなくなると、お風呂では右手に防水カバーをして、すべて左手で洗わなければいけなくなりました。そもそも、服を着替えるのが大変でお風呂に入るにも一苦労でした。

ご飯の時は左手ではしを使わないといけないし、自転車は右手でブレーキをかけることができないため、お母さんに送ってもらったり、友達に荷物を持ってもらい、歩いて帰ったりしました。

ギプスをしている間はプールにも入れず、部活で野球をすることもできませんでした。授業中にノートが書けず、友達がかいてくれることもありました。このように、周りのみんなにいろいろな場面で助けてもらいながら生活をしていました。

そんな中、僕は大変なことに気がつきました。数日後に一学期の期末テストがあり、さすがに友達には頼れません。

そこから、左手で文字を書く練習を始めました。さらに、担任の先

生が他の先生と相談をして、僕はみんなとは別の部屋で、みんなより十分時間を延長してくれるように手配してくれました。左手で書くのは時間がかかるし、きれいに書けませんでした。先生たちがそういう対応をしてくれてありがたいと思いました。

その時、お母さんが「公平な対応をしてくれて良かったな」と言ってくれましたが、僕はその意味がよく分かっていますでした。

今回、人権作文を書くにあたって、お母さんに「平等と公平の違いって分かる？」と聞かれましたが、やはり僕には分からず、インターネットで検索してみました。

平等とは、「差別や偏りがなく、すべてが等しいことを指し、均一的な扱いで権利も平等」と。

公平とは、「個々のニーズや状況に応じてすべての人が同等の機会を得られるように配慮すること」と出てきました。

僕はそこで初めて、先生たちは右手を使えない僕に公平な対応をしてくれたことに気がつきました。誰でも平等にしないといけないと思っていましたが、平等はすべての人が差別なく同じスタートラインに立つことだろうと思います。しかし、個々の状況が違うのに同じ扱いをうけても、平等とは言えないと思います。

さらに検索を続けるとよい例がありました。それは、「大人や子ども、男性と女性、みんな平等に同じ大きさのくつを与えても、それは公平ではありません。それぞれの足のサイズにあったくつを与える。それが公平ということです」というものです。僕はなるほどと納得しました。

ぼくは決して好きでけがをしたわけではありません。しかし、僕は恵まれていて、先生たちが公平な扱いをしてくれました。でも、世の中には公平な扱いをされずに困ったり、生きづらい思いをしたりしている人が多くいると思います。身体に障がいをもっている人、性別に

よる職業の選択や出世の際の差別、国籍による差別、生まれ育った環境の差別、その他にもいろいろなものがあると思いますが、どれも自分ではどうしようもないことだと思います。

これから僕は、個々の状況を理解して公平な対応ができる人間になりたいと思います。もしも、不平等・不公平な扱いをされている人を見つけたら、寄り添って助けてあげられる大人になりたいです。そのためは、不公平な扱いをうけている人の気持ちを理解して、みんなが公平に生きていける社会でないといけないと思います。

僕のギプスをしていた数ヶ月は、不便で少し辛くて痛かったけど、その経験があつたからこそ、公平な扱いをしてくれる学校に通えていると感じる事ができました。問題視することなく、自然に公平な対応をしてくれた先生や学校に感謝しています。